

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準学力分析検査において、標準偏差値を48.5以上にする。

3. 指標にむけての取組

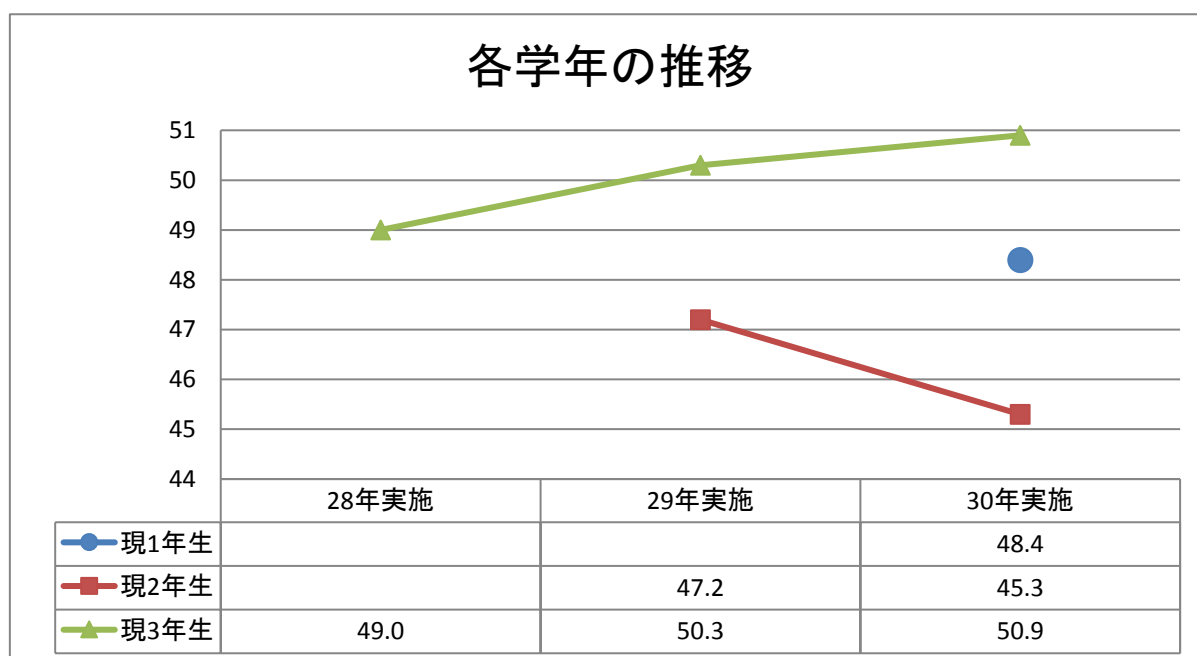
- ・授業力向上のために、一人一回の授業研の実施と指導主事を招聘した全体研修会の実施。
- ・「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」や「確かめシート」、「全国・県学力調査問題等」の有効活用。
- ・家庭学習の定着を図る週末課題と自学ノートの徹底と継続指導

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
本校(A)	45.7	46	47.8	48.3	48.2
嘉麻市(B)	46.6	47.0	47.3	47.9	49.3
(A) - (B)	-0.9	-1	0.5	0.4	-1.1
標準偏差値との差 (A) - (50)	-4.3	-4	-2.2	-1.7	-1.8

各学年の推移



5. 各学校における分析

・フクトの「ことば力」に関する資料の習得レベル別の人数と占有率のデータから、「習得レベルA」割合は1年:9.5% 2年:3.2% 3年:11.7%、「習得レベルB」の割合は1年:89.2% 2年:87.3% 3年:85.0%「習得レベルC」の割合は1年:1.4% 2年:9.5% 3年:3.3%であった。このことから、「習得レベルB」の生徒を引き上げる対策が必要である。また、「習得レベルC」の生徒への習熟度に応じた支援も計画的に取り組む必要がある。

6. 各学校における今後の取組

- ・定期考査前及び定期考査後の補充学習を実施し、知識・技能の定着を図る。
- ・指導資料や全国・県学力調査問題等を参考に各定期考査で思考力を問う問題を提出する。
- ・家庭学習の定着を図る取組では、生徒の学力実態に応じた家庭学習課題を用意する取組と課題の提出率を上げる取組(提出率80%以上)を徹底する。
- ・定期考査単位ではなく、各教科で単元ごとに振り返り(形成的評価)を行い、未定着な内容については、補充的な学習を実施する。
- ・学習内容の定着が不十分な内容については、「山田中タイム」(仮称)を設定して、習熟度別の補充学習を実施する。
- ・一人一回の授業研の中では、「かく活動」「話し合う活動」を積極的に取り入れ、知識・理解の習得と学ぶ意欲の向上に努める。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 授業づくりにあたっては、「書く活動の設定」「高校入試や県教材等を取り入れた定期考査問題作成」「生徒による授業評価の活用」の確実な実施を後押しし、定期的に報告と指導助言を行う。
- 学習サポーターを配置した「嘉麻市土曜未来塾」を年間40日程度開塾することで、基礎基本の定着の強化と家庭学習の習慣化を図る。また、長期休業中及び放課後等における補充学習、個に応じた学習を支援する。
- 嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会を開催し、保護者と取組とその状況を共有する。
- 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を年間5回開催し、有機的に機能させる。検証改善にあたっては、主幹教諭が要となっていくように研修及び指導助言を行う。また、短期検証改善サイクルを確立していくよう、年間4回の主幹教諭研修において、教育委員会としてのチェック・アクションを実施し、好循環を促す。
- 嘉麻市教育センター主管研修に講師研修会を実施する他、校区に1名配置している学力向上推進員が講師や若年教員の授業参観指導を通年実施する。